

平成29年度・事業報告書

社会福祉法人 コージー南国

1、法人事業報告

イ、経営目標について

平成28年度に引き続き、平成29年度も経営の改善と運営の安定化に努めた。経営面では定員枠に近づき今後も利用が見込まれることから、それまでの利用者定員を生活介護10名、就労継続支援B型10名の20名から、生活介護・就労B、各々5名増やし、生活介護15名、就労継続支援B型15名の計30名への定員変更を県に申請し、平成29年6月1日付で変更認可を得ることができた。

しかし、多機能型は生活介護、就労Bそれぞれ事業ごとの定員でなく、生活介護、就労Bを合算した定員扱いとなり、事業ごとの定員はそれぞれ15名であるが、多機能型は合算の30名となるため、支援費単価が定員20名より下がった。

そのため、29年度年度経営目標として、実利用人員を生活介護12名から15名に、就労継続支援B型を6名から10名とする増員目標を立てたが、次頁表2のように、生活介護はこの1年ほぼ横ばいで推移した。

また、コーギー南国の運営方針として、障害程度＝支援区分が高く受け入れが困難な方は、可能な限りコーギーとして受け入れていく方針で臨んでいる。

一方、支援現場は支援度の高い利用者が増えればその分、手を取られる事になり、支援体制の充実化＝常勤の増員要望が出ていた。利用定員増にあたり、それまでのパート配置職員を常勤配置職員とし、現場の支援体制の充実化を図った。

(表1) 平成29年度職員配置体制

多機能型 職 種	生 活 介 護		就 労 継 続 支 援 B 型		配置基準
	常 勤	非常勤	常 勤	非常勤	
管理者	1(兼)		1(兼)		1
サービス管理責任者	1(兼)		1(兼)		1
生活支援員	3	2	1		4
職業指導員			1		1
医 師		1			1
看護師	1				1
事務員	1				
合 計	5(兼1)	3(兼1)	2(兼1)	(兼1)	

経営的には、定員増による支援費単価の減、人員増による人件費の増加を吸収できる実利用者増に至らず、単年度事業収支はわずかであるがマイナスとなった。

平成30年3月末に至り、なんとか生活介護15名、就労継続支援B型10名の計25名となり、年度目標は達成することができた。

(表2) 平成29年度月別利用者推移

H29	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
生活介護	12	13	13	13	13	12	12	12	12	13	13	15
就労B型	5	7	8	8	8	9	9	9	9	9	9	10
合計	17	20	21	21	21	21	21	21	21	22	22	25

(表3) 平成29年度月別利用延日数

H29	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
営業日数	20	19	22	20	22	20	21	20	20	19	19	21
生活介護	234	233	257	223	258	211	227	213	206	198	198	221
就労B型	97	112	138	128	136	136	147	139	147	130	122	140
合計	331	345	395	351	394	347	374	352	353	328	320	361

ロ、運営目標について

平成29年度は、定員増に合わせ職員も全員を常勤職員とした。その運営目標として新規採用常勤職員に対し、支援業務の一連の流れ（個別支援計画作成→支援サービス実施→記録・評価→個別支援計画見直し→支援サービス実施→記録・評価）及び担当者会議・モニタリングといった一連の手順の重要性について研修を行い、その実践と理解に努めてきた。

また、運営目標の一つでもある利用者主体の意思決定の尊重に基づき、一昨年発足した「コーギー南国当事者と家族の会」との合同行事の計画に当たり、職員が全て段取るのではなく、生活介護、就労Bそれぞれから利用者代表を選出、それぞれ代表がみんなの意見を聞いて計画に反映し、11月に香美市の「ホット平山」で家族の方々と共にバーベキューを行うことができた。

また年末の利用者・職員・家族の「忘年会」も、これまで職員主体で進めていた

が、利用者で話し合い、プログラム内容や食事についても希望を聞き、またメインのカラオケ大会の司会を利用者代表が務めるなどの機会を作ってきた。

こうした取り組みが、生活介護・就労Bとも、日々の朝礼や終礼も利用者自らが当番制で司会進行を持ち回りで行うといった面にもつながってきている。

このように、1から10まで、職員が企画立案および指示するのではなく、利用者自らが、自分たちの思いや意思を表明し行動に移すことの体験を通して、周りへの依存性を減らし、自ら自己決定することが自立につながる。それを支援するのが我々の務めであり、今後も生活のあらゆる場面で自ら判断し行動に移すことを習慣化させたい。

また、こうした取り組みから利用者通しでの協力関係、助け合い関係、年配の利用者が若い利用者に言葉かけをし、時には作業手順を教える。次には何をするかを教える。またグループからはずれたり、他の行動を取ろうとすると注意してくれる。余暇時間には年配者が若い利用者の相手をしてくれるなど、良い関係づくりが育ってきている。

ハ、通年目標

- ① 通年目標としていた、利用者増に伴う新たな作業場所の確保については、南国市内で格安の賃貸事務所または倉庫的場所を捜していたところ、元高知県南国農業改良普及所跡（南国市立田）の存在を知り、県の担当課である環境農業推進課に利用希望を打診したところ以外にも社会福祉法人であれば貸し出し可能との回答を得たため、正式に県普通財産貸付申請書を提出した。

しばらくして県より回答があり、貸出期間はあくまで1年以内のため、来年3月までの実質8～9ヶ月間だけとのことであったため、止む無く断念した。

以後他を捜していたところ、年明けの1月にコージー近くの徳橋耳鼻科が、12月末で閉院し空いていることを知り、コージーが借りたい旨お願いしたところ、コージーであれば貸しても良い。との回答を得た。借りる時期として本年後期9月以降を予定している。

- ② トラック団地進入路の危険性から施設移転の検討を課題としていたが、工事も中断しており、状況を見極めて判断することとし保留とした。
- ③ サービス管理責任者育成については、研修要件である実務経験年数要件達成待ち。
- ④ 諸々の加算に関しては、送迎加算Ⅰ・看護配置加算Ⅰ・福祉専門職員配置加算Ⅰ・処遇改善加算Ⅰを維持できている。

- ⑤ 就労Bの作業種目を増やし利用者工賃の向上を図る。に関しては、昨年秋以降、空き缶リサイクル活動に本格的に取り組み始めた。月を追うごとに空き缶回収区域も拡がり、回収量も確実に増加してきている。作業収入的にはまだ少ないが今後の増加が見込まれる。

また昨年秋に、隣接の釜原鋳工所さんの畑を好意により無償で借り受け、試みのほうれん草・二十日大根・ブロッコリ・春菊・ニンニク葉・玉ねぎを植えた。

初めてなので、育ち方は今一つ良くなかったが、みんなで収穫し利用者を持ち帰ってもらった。本年度もサツマイモなどにチャレンジし販売につなげたい。

II、事業活動報告

① 生活介護

生活介護の週間予定は以下のとおり

(表4) 生活介護週間予定表

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午 前	散歩活動	散歩活動	散歩活動	散歩活動	散歩活動
	作業活動	作業活動	作業活動	作業活動	作業活動
午 後	カラオケ	あくた 運動レク	読み聞かせ	創作活動	喫 茶 コーギー

イ、散歩活動

前年に引き続き、生活介護は午前利用者の体力低下防止、健康維持増進を目的として散歩活動に取り組んだ。当初は全員同じ距離で行っていたが、取り組む中で年齢差および体力差による歩行力の差が顕著に見られだした。若い者に合わせれば年配組が着いていけず、年配組に合わせれば、若い者には物足りなさがあった。

そこでまず、遠距離組と短距離組の2班に分けて取り組んだ。当初は、歩幅も若者に追い付かず遅れ気味であったが、脚力が付くにつれ歩幅も大きくなりしっかりと歩けだした。

年配組は短距離(片道約300m)から慣らしでいった。日々取り組む中で、片道300mから500m、そして800mと確実に歩行力が上がっていった。

さらに、年齢差、体力差、その日の体調に合わせて、長距離、中距離、短距離、

室内組に分けて散歩活動に取り組んだ。

散歩活動を通して、日々継続的に取り組むことが如何に重要か、利用者を通して実感させられた。

ロ、空き缶リサイクル活動

空き缶リサイクル活動に先立ち、久礼田地区や比江地区への広報活動としてチラシ配りを行った。利用者一人一人が声を出しながら地域の人たちに空き缶回収の協力を呼びかけることにより、空き缶の回収量は徐々に増え、地域の方から「頑張っ
てね!!」といった励ましの言葉や、直接施設に届けてくれるなど、これまで以上に地域との結びつきを感じることができた。

今後の課題は、いかに回収地域を拡大していくか、回収量が増えれば増えるほど利用者の作業量が増え、利用者の工賃改善につながるため、これまで以上に広報活動に取り組み、回収量の拡大化を図りたい。

ハ、創作活動

創作活動は、絵画の取り組みを通して、絵に独特の表現をした作品や、緻密な表現の作品、独特の色使いをする作品など、それぞれ個性あふれる表現が見られた。その中から、良い作品をTシャツにプリントして販売しようとの提案がなされ、試み的に3種類の作品をTシャツにプリントし予約販売したところ、78枚販売できたが色々課題も多く、一旦保留とした。

また、もう一つの目標として、秋の「スピリットアート展」へ出品することとし、絵画制作に取り組んだ。個人作品と共同作品の2本立てで取り組み、それぞれスピリットアート展に出品した結果、生活介護最高齢（67才）の利用者の作品が、みごと入選し、高知県知事表彰を受けることができた。

ニ、カラオケ活動

前々から利用者からも希望の出ていた「カラオケ」を購入し、毎週月曜の午後カラオケタイムとしてカラオケを実施、購入に当たっては、あらかじめ利用者の好きな歌を調べて購入曲目リストに加えた。

利用者から曲目を増やして欲しいとの要望が出ており、今後、曲目数の充実を図りたい。

ホ、本の読み聞かせの取り組み

本の読み聞かせについては、本を読むのを聞くことで心の安定化が図られ、また人の話を聞く対人コミュニケーションの基本につながり、話の内容を創造することで情緒の豊かさにもつながる重要な活動といえる。

へ、喫茶コージの取り組み

本年度は、一日、一週間、一ヶ月といった時間の流れ、日の流れ、一週間の流れ、月の流れ、春夏秋冬といった四季の流れを感じ取ってもらい、生活と活動にメリハリをつける意図で、喫茶コージに取り組んだ

毎週金曜日は、一週間の締めくくりの日であり、この一週間頑張ったね、との意味で、一週間の活動の締めくくりを意識付けるため、ゆっくり座って飲み物を飲みながら、仲間や職員と一緒にくつろぎのひと時を過ごすことを大切にしてきた。

毎月、最後の金曜日に利用者は自分の工賃から100円を持って、喫茶コージを、町の喫茶店と同じく接客、飲み物のオーダー（注文取り）、配膳、代金の受け取りまでの流れを体験するなど利用者の大きな楽しみとなっている。

平成29年度生活介護の月別利用者推移は次のとおり

(表5) 平成29年度生活介護月別利用者推移

H29	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
生活介護	12	13	13	13	13	12	12	12	12	13	13	15

上記のとおり、年度初めの平成29年4月の利用者は12名、5月に13名となり定員超過となるため、県に対し定員を10名から15名に変更手続きを取り認可を得た。

しかし7月に1名、支援区分見直しでそれまでの区分3から2となり、生活介護利用対象外となり8月末で利用解除、他の就労継続支援B型事業所に移り9月に再び1名減の12名となったが、本年1月に1名、3月に2名新規利用者が増加し15名となった。

平成29年度の生活介護の作業活動による収入および工賃は以下のとおり

(表6) 平成29年度・生活介護月別作業収入・作業工賃

生活介護	箱折り	手袋	空き缶	作業収入	作業工賃	作業収入に占める工賃比率
4月	11,350円	15,749円	—	27,099円	26,500円	97.8%
5月	7,668円	14,686円	—	22,354円	21,900円	98.0%
6月	10,312円	20,379円	789円	31,480円	27,600円	87.7%
7月	9,300円	16,320円	1,800円	27,420円	25,600円	93.4%

8月	13,850円	14,669円	2,040円	30,559円	26,100円	85.4%
9月	8,124円	10,031円	2,040円	20,195円	25,200円	124.8%
10月	—	9,607円	12,380円	21,987円	25,100円	114.2%
11月	2,400円	6,053円	2,700円	11,153円	23,600円	211.6%
12月	—	3,225円	7,950円	11,175円	35,300円	315.9%
1月	2,268円	4,274円	6,480円	13,022円	20,800円	159.7%
2月	5,216円	6,540円	5,520円	17,276円	24,700円	143.0%
3月	—	10,381円	5,230円	15,611円	25,000円	160.1%
合計	70,488円	131,914円	46,929円	249,331円	307,440円	平均 123.3%

現在、生活介護の作業活動は箱折り、手袋成型袋詰め、空き缶回収と缶潰しに取り組んでいる。平成29年度は手袋成型袋詰めと空き缶回収と缶潰し作業をメインに取り組んだ。箱折り作業は浜幸の箱（銘菓選）1種類、野根まん1種類で、出来る者は13名中3名のみとなっている。箱折り組立作業は、一定指先の力の入れ加減などの器用さが求められ、職員でもすぐにはできない。

したがって、生活介護の作業としては、手の器用さなど必要とせず、かつ、できる限りノルマにしばられることのない作業が望ましく、空き缶の回収や缶潰し作業などは誰でもできる作業であり、今後も継続的に取り組んでいきたい。

※ 自立支援に向けた取り組み

平成29年度特筆すべきこととして、支援区分5の利用者で、情緒不安定を起しやすく、日常的に激しく泣く状況が見られ、またトイレにも自ら進んで行くことがなく、日常的に尿失禁も見られていた。職員が根気強くトイレ誘導も支援した結果、今はほとんど失禁もなくなり自らトイレに行けるまでになっている。

さらに、これまで数年間も風呂に入ったことがないとの報告を受け、なんとか風呂に入れようと試み的にシャワー浴を促し、何年振りかでシャワー浴をすることができた。後日、ご家族から家でも自分から進んで風呂に初めて入ったと、喜びと感謝の報告を受けた。現在は全く抵抗なしにトイレもシャワーもできている。

また、同じく支援区分5の利用者で、度々、TPOの理解が困難なため、自分の欲しいもの・したい事を、時・場所・状況に関係なく自己主張し、それが通らなければ興奮して大声で怒鳴り、時に攻撃的になる利用者に対しても、単なる言葉での規制や行動を

規制することなく、怒鳴らないなど、いくつかその日の約束を本人とし、守ることが出来たら本人の希望を受け入れる支援方法を試みたところ、1年前に比べて確実に興奮して大声で怒鳴るなどの行為が減少した。

こうした取り組みは、昨年新規採用した職員の2名が介護福祉士資格を持ち、介護の実務経験を有していた職員であったことが大きいと考えられる。

② 就労継続支援B型

平成29年度就労継続支援B型の週間予定は以下のとおり

(表7) 就労継続支援B型週間予定表

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	箱折り組立 缶回収潰し 割り箸入れ	箱折り組立 缶回収潰し 割り箸入れ	箱折り組立 缶回収潰し 割り箸入れ	箱折り組立 缶回収潰し 割り箸入れ	箱折り組立 缶回収潰し 割り箸入れ
午後	箱折り組立 缶回収潰し 割り箸入れ	箱折り組立 缶回収潰し 割り箸入れ	箱折り組立 缶回収潰し 割り箸入れ	箱折り組立 缶回収潰し 割り箸入れ	箱折り組立 缶回収潰し 割り箸入れ

就労Bの作業は、これまで浜幸の菓子箱組立作業中心であった。生活介護の作業報告でも触れたが、菓子箱組立作業は折り目付けや組立てに指の器用さや力を入れ加減、具合などが求められ、折り目も少しでもズレれば不良品として没にされるなど、誰でもできる作業でなく、新規利用者を受け入れても箱折りが難しく菓子箱組立以外の、作業の導入を課題として位置付けてきた。

一昨年より浜幸からノルマを求められるようになり、予定の箱以外に突発で、別の箱をいついつまでに〇〇数折って欲しい。また、通常の一日量の倍量数を急いで折って欲しい。といった難題を課せられるようになり、担当職員が「難しい」と回答すると、どれ位ならできるのか、何故できないのか、一日の計画書(マックス数)を提出するように、また出来なければ始末書の提出を求められるといった、それまででない厳しさを求めてきた。

これまで長年にわたり、箱折り作業の仕事を回していただいた恩もあり、可能な限り対応するように努めてきたが、次第に求めるハードルが高くなり対応に限界がきていた。

このままでは、新たな作業に取り組む時間的、場所(空間)的確保は困難と判断し、

浜幸側と話し合いをし、1日の生産の目安を200箱とする。突発の箱組立ては出来ない旨伝えた。浜幸側は急には困るとの回答で、向こう3ヶ月程度で段階的に減らしていく、突発もコーギーで対応可能な範囲で協力することで合意し、実質的に10月から生産調整に入り、1日200箱で現在行っている。

箱が減った分、広報活動や空き缶回収、缶潰し作業などに取り組めるようになり利用者自身も、今まで以上に生き生きと作業に取り組んでいる。

(表8) 平成29年度就労継続支援B型月別利用者推移

H29	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
就労 B型	5	7	8	8	8	9	9	9	9	9	9	10

平成29年度は3月末で1名の利用者が、就労継続支援A型事業所に移ったため1名減の5名となったが、5月には新規利用者が2名増、6月には新規利用者が1名増、9月にさらに新規利用者が1名増、そして本年の3月にさらに1名増となり、現在利用数を10名とすることができた。

昨年の3月末に就労継続支援A型事業所に移った利用者は、移ったあともほぼ毎月コーギーに遊びに来てくれ、利用者・職員共々良好な関係を続けており、さらには空き缶の回収の協力もしてくれている。

また、昨年清水基金に助成申請していた「空き缶プレス機」の助成が決定し、本年の3月に「空き缶プレス機」が納入されて、B型の利用者が職員より早く使い方も覚え、空き缶のプレスに生き生きとして取り組んでいる。

それまでの手作業ならぬ足で1個1個潰す作業から、一気にみかんコンテナ2個分を一度に処理できるため、施設の横に山積みになっていた空き缶が、アッと言う間に減り、今まで以上に空き缶リサイクルの広報活動に力を入れ、回収率のアップを図りたい。

(表9) 平成29年度・就労継続支援B型月別作業収入・作業工賃

生活 介護	箱折り	割り箸	空き缶 オクラ詰	作業収入	作業工賃	作業収入に占める 工賃比率
4月	127,573	8,208		135,781	70,866	52.2%
5月	66,478	2,110		68,588	57,306	83.6%
6月	82,601	21,438		104,039	77,872	74.8%
7月	104,005	14,742	1,804	120,551	106,105	88.0%
8月	88,945	11,340	6,712	106,997	73,108	68.3%

9月	94,887	6,048	2,040 1,841	104,816	83,359	79.5%
10月	32,897	13,608	12,380	58,885	101,953	173.1%
11月	46,776		2,700	49,476	93,992	190.0%
12月	82,226	22,572	7,950	112,748	145,500	129.0%
1月	23,757	6,804	6,480	37,041	93,192	251.6%
2月	28,382		5,520	33,902	103,870	306.4%
3月	55,080	14,742	5,230	75,052	100,552	134.0%
合計	833,607	121,612	42,300	1,007,876	1,107,675	109.9%

平成29年度B型の作業収入は、箱の組立てが主であるが前述のとおり、厳しいノルマがあり、職員が作業に大きく関わった結果の成果である。当然、就労支援が目的の事業であり、職員が作業指導をするのは当たり前のことであるが、企業の成果主義の論理をそのまま障害者支援に持ち込むことには違和感を覚える。

コーギーとしてはそれぞれの障害程度に応じた作業を用意し、個々人の能力に応じた作業を提供することが責務と考える。

一方、平成30年度から、就労継続支援B型は一年間の利用者への工賃支給平均額によって支援費単価が決まる仕組みになったので、今まで以上に作業収入を上げることが至上命題となっている。

平成30年度は、新たになすの選別と袋詰めと北川村ゆず王国のゆず玉のトリミング、皮むき作業を導入予定している。ただ業務用冷蔵庫と冷凍庫が必要である。

③ 日中一時支援事業

平成29年度の日中一時支援事業の利用は、前年に比較して少なく、利用者は2名
利用日数は、計11日に留まった。

(表10) 平成29年度日中一時支援事業月別利用者推移

H29	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用数					1人				1人			
日数					5日				6日			

④ 実習生受入れ状況

(表11) 平成29年度の実習受入れ状況は以下のとおり

受入れ期間	受入れ日数	受入れ人数	実習依頼先
平成29年5月15日～5月26日	10日	3名	山田養護学校
平成29年6月5日～6月9日	5日	1名	〃
平成29年6月5日～6月9日	5日	1名	若草養護学校
平成29年6月12日～6月16日	5日	1名	山田養護学校
平成29年9月19日～9月21日	3日	1名	若草養護学校
平成29年10月16日～10月20日	5日	1名	山田養護学校
平成29年10月16日～10月27日	10日	1名	〃
平成29年11月6日	1日	1名	若草養護学校
平成29年11月6日～11月17日	10日	2名	山田養護学校
平成30年2月6日～2月8日	3日	1名	〃
平成30年1月30日～2月1日	3日	1名	〃
平成29年度・合計	60日	14名	(延べ日数・人数)
平成28年度受け入れ実績	28日	7名	

平成29年度の実習受け入れ数が前年に比し、日数、人数共に倍となった。これはコージーが支援度の高い実習生を積極的に受け入れていることが、学校の期待感と評価につながったとおもわれる。また、前年から定員を増加したこともあり、今後もコージーとして積極的に実習生を受け入れることにより、新規卒業生の受入れ=新規利用につなげていきたい。

⑤ 職員研修

イ、施設内研修

平成29年度は、年度当初に3名の常勤職員の新規採用を行った。新採用職員には初日新採オリエンテーション実施および新人研修を実施、採用1ヶ月目職務評価実施、採用3ヶ月目職務評価実施、採用6ヶ月前本採用事前研修実施を経て、本採用試験を実施した結果、3名共基準点以上で本採用とした。

この3名の内、2名は介護福祉士資格保有者で介護実務経験のある職員であったた

め、障害者支援に関する研修の理解も早く、支援業務に対してもその基本的な姿勢は備わっており、その支援取り組み実践については、事業報告の生活介護の※「自立支援に向けた取り組み」を参照されたし。

(表12) 平成29年度の研修は以下のとおり

研修実施日	内部研修	外部研修
4月	新人採用研修 (武田良作・松村瑠美・坂本ゆかり)	
6月28日	新人研修 事例を用いたコミュニケーション演習	高知県知的障害福祉協会主催 6/23 「施設長・幹部職員研修」 サウスブリーズホテル 参加：長谷川真弓美・小松美香
7月		サービス管理責任者初任者研修 参加：長谷川真弓美
8月	本採用試験事前研修・採用試験 (武田・松村・坂本)	① 社会福祉経営協セミナー (所長:長谷川) 8/4 高次脳機能障害支援研修 参加：長谷川真弓美・武田良作 松村瑠美・坂本ゆかり
9月13日(水) 講師：西村昇 「すずめ共同作業所 所長」	演題「続けて来たくするような 事業所づくりのために」	
11月1日 講師：支援統括長 長谷川真弓美	グループワーク (事例研修)	
12月	本採用試験事前研修・採用試験 (為近美奈)	12/17 県障害者虐待防止・権利 擁護研修 ふくし交流プラザ： 参加：武田良作
1月	新人採用研修(浅井香奈)	社会福祉経営協セミナー：所長
2月28日(水) 講師：所長・長谷川	虐待防止・人権擁護研修 ① 虐待の発生要因 {あおぞら宣言}	就労支援技能トレーニング講習 男女共同参画センター「ソーレ」 参加：小松美香
3月14日(水) 講師：土佐希望の 家療育部長・小谷卓	重度障害者の支援について	
3月25日 講師：支援統括長 長谷川真弓美	障害者総合支援法について	

⑥ 防災訓練

平成29年度防災訓練は、火災(消火・避難)訓練2回、地震訓練1回、風水害訓練1回に留まった。地震訓練・風水害訓練それぞれ2回以上は実施する必要があり、次年度は2回以上実施したい。

(表13) 平成29年度防災訓練は以下のとおり

訓練実施日	訓練内容	参加者数
7月10日 13:30~14:00	地震訓練 (一時避難机下、二次避難屋外)	利用者：21名 職員：8名
9月4日 10:30~11:00	火災訓練 (消火・通報・避難) 消防立会いなし	利用者：19名 職員：9名
11月27日 11:00~11:30	火災訓練 (消火・通報・避難) 消防立会い有り	利用者：21名 職員：10名 消防署員：2名
2月21日 13:30~14:00	風水害訓練 (避難：屋内2階)	利用者：22名 職員：9名

⑦ 次年度に向けた課題

平成29年度は、定員変更(20名→30名)に伴う支援スタッフの充足を図り支援体制の充実化を図った。タイミング良く、3名採用の内2名が介護福祉士資格を有する介護実務経験のあるスタッフだったため、すでに報告のとおり支援度の高い利用者への自立支援に対する取り組みで、大きな効果が見られた。

また、生活介護の方は支援度の高い利用者を受け入れることにより、これまでのスタッフ1名で3~5名の利用者への支援体制で特に支障が感じられなかったが、施設内で情緒不安定状態や極端な興奮、パニックを起こしたときなど、1対1の対応が必要となる。経営面も注視しながら、スタッフに精神的ストレスとならない支援体制を取りたい。

就労継続支援B型は、作業種目の充実化が図られてきているが、作業をこなせる利用者が不足気味となってきている。B型利用者の利用増を図ると共に工賃のアップにつなげていきたい。

今後も利用者増を図り、経営的安全ラインの維持と支援体制のさらなる充実化を図り、法人理念の実現に引き続き努める。